

Contents

- 2 ページ上段、3 台目の手術支援ロボット（ダヴィンチ Xi）を導入しました
- 2 ページ下段、「対話型乳がん疾患説明生成 AI」を開発しました
- 3 ページ、ぞうけつに必要な新規遺伝子を発見、新たな白血病治療につながる可能性
- 4 ページ上段、アヤがんの医療と支援のあり方研究会学術集会「最優秀演題賞」を受賞しました
- 4 ページ下段、日本がん登録協議会第 33 回学術集会報告、がん対策センター生物統計研究職の工藤先生の発表が優秀口演賞に選ばれました
- 5 ページ、一緒にからだを動かそう！フレイル予防の会を開催しました
- 6 ページ上段、看護部国際看護交流、Welcome to Osaka International Cancer Institute
- 6 ページ下段、みんなで学ぼう！ 膝がんチーム医療セミナーを開催しました
- 7 ページ上段、第 4 回 合同膝がん教室&パープルライトアップを開催します！
- 7 ページ下段 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 8 ページ上段 寄付者ごほうめい
- 8 ページ下段 ご寄付のお願い

2 ページ上段

3 台目の手術支援ロボット（ダヴィンチ Xi）を導入しました、
がんロボット手術センター、センター長 中山 雅志

当センターでは、患者さんにより高度で安全な医療を提供するため、ロボット支援手術を積極的に導入しております。これまでに 2 台の手術支援ロボット「ダヴィンチ Xi」を用いて、年間 500 例以上の手術を実施し、関西地域において最多の手術実績を誇っています。

7 月から、新たに 3 台目の手術支援ロボットを導入し、さらに多くの患者さんに迅速かつ的確に対応できる体制を整えました。これにより、手術の待機時間が短縮され、より早期に治療を受けていただけるようになります。

これまで胃外科、大腸外科、食道外科、呼吸器外科、婦人科、泌尿器科においてロボット支援手術をおこなってまいりましたが、今年度より肝胆膵外科、頭頸部外科にもロボット支援手術を導入いたします。各診療科においてさらに多様で高度な手術が可能となります。

がんロボット手術センターでは、今後も最先端の医療技術を積極的に取り入れ、患者さん一人一人に最適な最高水準のがん治療環境を提供できるよう努めてまいります。私たちは、各診療科のさらな

る発展とともに、ていしんしゅう手術を安全かつ迅速に患者さんにご提供できるよう、全力で取り組んでまいります。どうぞ安心して、いつでもお気軽にご相談ください。

2 ページ上段

「対話型乳がん疾患説明生成 AI」を開発しました。乳腺・内分泌外科 中山 貴寛。

現在、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所および日本 IBM と当センターの共同研究として、「医療現場における医療情報収集の効率化を目指し、生成 AI を活用した患者説明・同意取得システムをはじめとするシステムの構築と社会実装に向けた検証」をおこなっています。その成果物として乳腺センターは「生成 AI を活用した対話型乳がん疾患説明システム」を開発しました。2024年8月26日に、この成果を公表するため中間発表会を開催しました。このシステムは初診患者さんが外来受診する際、前もって乳がんの治療法について動画で学び、疑問点を生成 AI に質問し理解を深めてもらうシステムです。患者さんからは、「忙しい先生には質問しにくいですが、本システムを用いることで、遠慮することなく家族を含めて時間をかけて乳がんに関する知識を得ることができた。」や、「インターネットで検索した場合、誤った情報にたどり着くことがあるが、このシステムは医師が監修しているので、安心して使用することができた。」などの感想を頂いています。

医療が進歩するにつれ、より良い医療が提供できるようになる一方、診療にさらに長い時間を費やすこととなります。医療界にも働きかた改革の波が押し寄せる中、このシステムは医療者の負担を軽減することができ、同時に患者さんにとっても多くのメリットが得られると考えられます。また、日本の医療のきんてん化や女性医師の労働環境の改善にもつながると予想され、多くの可能性を秘めた素晴らしいシステムとなっています。

3 ページ

ぞうけつに必要な新規遺伝子を発見。新たな白血病治療につながる可能性

当センター血液内科主任部長の横田 貴史は、中井 りつこ特別研究員、大阪大学微生物病研究所の竹田 潤二招へい教授らとともに、ぞうけつに関わる未解明の遺伝子について論文を発表しました。本研究成果は、英国科学誌「Nature Communications」(2024年6月25日オンライン)に掲載されています。

研究成果のポイント

- ・生涯にわたってぞうけつに必要な遺伝子を発見し Ahed と命名
- ・哺乳動物の潜性遺伝子異常のスクリーニングはこれまで困難であったが、独自に作製した変異胚性かんさいぼうを用いたスクリーニングにより、機能未知の新規遺伝子を同定することに成功
- ・RNA スプライシングの制御を介した新たな白血病治療への応用に期待

研究の概要

当研究グループは、独自に考案した方法で、ぞうけつに関わる新規遺伝子を見つけることに成功し、この遺伝子を Attenuatedhematopoieticdevelopment (Ahed)と命名し、世界で初めて報告しました。

ぞうけつかんさいぼうから赤血球・白血球・血小板などのさまざまな血液細胞ができるぞうけつシステムは、多くの遺伝子によって精密かつ複雑に制御されています。また、それらの遺伝子に異常がおこると、白血病をはじめとする血液がんになる事が分かってきました。人の遺伝子に関する情報は、近年の解析技術の進歩により急速に蓄積されつつありますが、機能未知の遺伝子も数多くあります。

当研究グループは、独自の手法を用いてぞうけつに必須の新規遺伝子 Ahed を同定しました。Ahed 遺伝子が無くなるとぞうけつかんさいぼうから血液細胞ができなくなりました。Ahed 遺伝子から生成される Ahed タンパク質は細胞の核内にいて、多くの遺伝子の発現に影響を及ぼすこと、そのメカニズムとして遺伝子転写産物 (RNA) のスプライシングに関与している可能性が明らかになりました。さらに Ahed 遺伝子の変異は、公開されているデータベースにおいて血液がん、特に急性白血病で多く見られることが分かりました。これらの研究成果は、ぞうけつかんさいぼうが多様な血液細胞を作る仕組みや、Ahed 遺伝子の変異によってがん化するメカニズムの一端を明らかにしただけではなく、今後 Ahed 遺伝子の機能制御を介した血液がん治療の開発に発展する可能性を秘めています。

研究の背景

哺乳類の骨髄に存在するぞうけつかんさいぼうは、生涯にわたり自分自身を維持する一方、毎日膨大な数の血液細胞を作って、全身に送り出しています。このメカニズムに関与する多くの遺伝子の役割が明らかにされ、その異常と血液がんとの関連性も示されてきました。しかしそれらの遺伝子異常が、実際にどのような機序でがんをおこすのか明らかになっていません。また、原因遺伝子が特定できない血液がん症例がまだ数多く存在することも看過できない事実です。このことは、ぞうけつの制御に関わり、その異常が血液がんの発症に関与する未知の遺伝子が存在することを示唆しています。

研究の内容

哺乳動物の細胞の遺伝子は2本ずつあり、片方に変化が起こっても、もう片方でその変化がうち消されるため、これまで潜性遺伝子のスクリーニングは困難でした。この問題を克服するため、1個の遺伝子が2本とも同時に欠損する変異胚性かんさいぼう (EmbryonicStem;ES) 細胞株 200 種類を作製しました。その中からぞうけつに関わる分子を探索するため、この変異 ES 細胞株と血液細胞に分化誘導させる間葉系細胞を共培養し、血球分化・成熟に関わる遺伝子をスクリーニングしました。その結果、ある遺伝子変異株において、血液細胞の産生が著しく障害されていることを見いだしました。その遺伝子はこれまで機能が解析されていない未知のものであり、Ahed と命名しました。

Ahed 遺伝子は、血液細胞に高発現しており、核内に存在するたんぱく質をコードしていることを見いだしました。この遺伝子をなくしたマウスを作って解析したところ、Ahed 遺伝子が無くなったぞうけつかんさいぼうは、胎児・成体いずれにおいても血球産生能力を喪失していたことから、Ahed 遺伝子は生涯にわたってぞうけつに必須の働きをすることが分かりました。分子遺伝学的な手法を駆使して解析を進めた結果、このたんぱく質が RNA のスプライシングを調節する機構を介してぞう

けつ発生に重要な役割を果たしている可能性を明らかにしました。さらに、公開されているデータベースにおいて、Ahed 遺伝子の変異がヒトの血液がん、特に急性骨髄性白血病で多く見られることも見いだしました。

研究成果が社会に与える影響

ぞうけつに不可欠な新規遺伝子 Ahed を発見しました。本研究成果により、ぞうけつかんさいぼうが全ての血液細胞を作る仕組みや、それらの変異により血液細胞ががん化するメカニズムの一端が明らかになること

が期待されます。さらにその成果は、Ahed が関与している RNA スプライシングの調節を介した、血液がんに対する新たな治療法・予防法の開発につながります。

当センター血液内科は、これからも血液がんの克服に向けて、臨床・基礎両面からの研究を続けます。

4 ページ上段

アヤがんの医療と支援のあり方研究会学術集会「最優秀演題賞」を受賞しました
がん対策センター 政策情報部長 / アヤ世代サポートチーム 中田 佳世

このたび、第6回アヤがんの医療と支援のあり方研究会学術集会において発表したポスター演題「アヤ世代における進行がん患者の実態調査」にて、最優秀演題賞を受賞しました。

わが国では毎年約2000人のアヤ世代（15-39歳）ががんで死亡していますが、この世代は、小児慢性特定疾病医療費助成制度と介護保険制度とのはざまにあって医療や療養の経済的な負担が大きいと想定されます。

支援策を考える上で必要な、根治困難ながんと診断されるアヤ世代の数やがんの種類、予後は明らかではありません。

本調査は、2016年から法のもと、全都道府県の全病院・全年齢・全がん種を対象としている全国がん登録のデータを用い、アヤ世代において遠隔転移を持つがん患者について、全国の数と割合、生存率を算出しました。全解析対象（2016～2018年診断）は49,926例で、うち遠隔転移を持つアヤ世代がん患者は、年間当たり約1600例（約10%）発生していることが分かりました。

2016年診断のアヤ世代がん患者のうち、遠隔転移なし群の2年生存率は96%、あり群は54%で、がん種別の検討では、遠隔転移あり群の胃がん患者の2年生存率（23%）が最も低いという結果でした。

今後はこれらの患者さんが適切な医療にアクセスできているか、どのようなケアを必要としているかを調査し、支援につなげる必要があると考えております。

ご指導いただきました先生がたに厚くお礼申し上げます。今後もがん登録を用いて、医療や患者支援の一助となる研究を進められるよう、精進したいと思います。

4 ページ下段

日本がん登録協議会第 33 回学術集会報告、がん対策センター生物統計研究職の工藤先生の発表が優秀口演賞に選ばれました、がん対策センター所長 みやしろ 勲（日本がん登録協議会 学術委員会委員長）

日本がん登録協議会（J A C R）第 33 回学術集会が 6 月 13 日から 15 日まで出雲市民会館で開催されました。大阪府がん登録、そして大阪国際がんセンターの院内がん登録を担当するがん対策センターから、5 名が発表しました。

優秀 2 演題を選出する口演セッションの 8 演題に、生物統計研究職の工藤先生と診療情報管理士の石田さんの演題が選ばれ、発表後の投票の結果、工藤先生の「大阪府がん登録を用いた小児がん経験者数の把握と有病率推計」が優秀口演賞に選ばれました。石田さんの発表にも票がはいりましたが、上位 2 つに一步及びませんでした。なお、学術委員会委員長である私は基本的には投票できません。

ポスター発表としては、診療情報管理士の原さんと花原さんがそれぞれ発表し、がん登録実務に携わる立場ならではの発表に、会場から質問が寄せられました。また、学術委員会企画シンポジウム「がん対策を支えるがん登録②～第 4 期がん対策推進計画へのがん登録への活用」のシンポジストとして森島疫学統計部長が登壇し、シンポジスト間および座長とのディスカッションを行いました。

主催の島根県から、大阪から多くの発表をおこなったことに感謝されました。スタッフがそれぞれの立場から情報発信してくれ、私も嬉しい気持ちになる…上長の役得ですね。

5 ページ

一緒にからだを動かそう！フレイル予防の会を開催しました

第 2 回、椅子に座ったままでもできる運動を体験！（5 月 23 日開催）摂食栄養管理担当者会・がんリハ委員会・がん専門運動指導士

入院患者さんを対象に第 2 回「一緒にからだを動かそう！フレイル予防の会」（主催、看護部、リハビリテーション科 協力、患者交流棟ルネサンス運動支援センター）を開催し、椅子に座ったままでもできる運動を患者さんと一緒に行いました。

「フレイル」という言葉をご存じですか？フレイルとは「虚弱」を意味し、かれいにより心身が衰えたり、活動的ではなくなったりする状態を示す言葉です。

入院中はどうしても活動量が低下してしまうため、患者さんが「これなら自分でもできそう」と気軽に参加できることを大切に、個々の体の状態に合わせて椅子に座ってできる運動をご紹介します。参加いただいた患者さんからは、「良い運動になりました」「動いた感じがあって良かった」とのお声を頂きました。今後も参加された方のご意見を聞きながら、参加しやすく続けやすいプログラムを考え、患者さんの生きる力を支えるための活動に取り組んでまいります。

第3回、『オーラルフレイル予防』の大切さをお伝えしました(6月10日開催)摂食栄養管理担当者会・口腔ケア委員会。

当センターでは、がん治療を支える支持療法の一つである「口腔ケア」を全ての患者さんに提供することを目標に掲げ活動しています。6月10日には「一緒に体を動かそう!フレイル予防会」とコラボレーションし、歯科石橋先生より「オーラルフレイルを予防しよう!」をテーマにお話ししていただきました。オーラルフレイルとは、歯や口の状態の悪化やお口の機能の低下をいいます。お口の機能の衰えが、全身の機能の衰えのきっかけにもなります。オーラルフレイルを予防し、「食べる」ことで体力を維持し、治療を乗り切るためにもお口のケアは重要です。また歯や口の状態は、治療に伴う口内炎などの発生に影響しますので、お口のケアはがん治療のあらゆる段階で重要です。

これからも、患者さんに「お口のケアは大切!」と思ってケアを続けていただけること、そして患者さんの生活の質向上に貢献できるよう取り組んでまいりたいと思います。

6 ページ上段

看護部国際看護交流～Welcome to Osaka International Cancer Institute～、看護部国際化委員会に
ゆう退院支援センター ふしたに 恵

6月12日にタイのチェンマイ大学看護学部から6名の教員のかたが来られました。

私は今年度、日本国際看護師(通称NiNa)の資格を取得し、またにゆう退院支援センターに異動したことで初診の外国人患者さんの対応に当たる機会も増えて、今回の国際交流を楽しみにしていました。

英語での当センターのプレゼンテーションを興味深く聞いていただき「タイは感染症が多く問題になっています。貴センターでは、感染率が他施設に比べて低いと発表されていますが、どのような対応をされているのですか?」などと、たくさんの質問をされていました。各部署のリンクナースの役割についてなどを金沢師長からお話しいただきました。資料は英語版で日本独特の感染管理加算の説明文など、感染症内科 医師、河村部長にご協力いただきました。

その後、9階までしこ病棟、内科・外科系外来、外来化学療法室へと院内ラウンドを経て、ツアーを終了しました。タイではがんに特化した病院は珍しいらしく、「大変学びの多い1日になりました」と喜んでいただきました。看護部では、これからも多文化への理解をさらに深め、国際化対応りよくの向上に向けて取り組んでまいります。

6 ページ下段

みんなで学ぼう! 隣がんチーム医療セミナーを開催しました、隣がん教室チーム

7月11日(木)19時から1階大講堂において、『みんなで学ぼう! 隣がん教室チーム医療セミナー』を開催しました。当センターの隣がん教室は、2015年6月から、患者さん・ご家族に向けて情報発信を続けています。

今回は、ガードントヘルスジャパン株式会社との共催により、初の医療者向けセミナーを企画しま

した。座長は肝胆膵内科 医師 たかだ副部長です。たしせつからも多くご参加いただき、約 80 名の医療者に向けて、看護部 北坂副看護部長より「がん看護最前線：ゲノム看護外来」、肝胆膵内科 医師 池澤副部長より「膵がん診療最前線：膵がん教室活動」、大阪市立総合医療センター 緩和ケア内科 医師 ただら 竜平部長より「継続的なチームアプローチ～診断時から看取りまで～」をお話しいただきました。

なんちがんである膵がん医療の質の向上に貢献し、患者さん・ご家族に「希望の光」を届けられるよう、これからもチーム一同取り組んでまいります。

7 ページ上段

第 4 回 合同膵がん教室&パープルライトアップを開催します。膵がん教室。

当センターの膵がん教室はチーム同士の交流をもとに、2021 年より毎年 11 月の「膵がん啓発月間」に、当センター・北海道膵がん教室・パンキャンジャパンによる「合同膵がん教室」の開催&膵がん患者さんの支援色である紫（パープル）のライトアップを開催しています。

今年度は内科・外科的治療に加え、大阪重粒子線センターの安西 誠先生による「膵がんの重粒子線治療について」のご講演を頂きます。

また、特別企画として、歌手の坂本冬美さんからのメッセージを紹介します。第 4 回目となる今年も、皆さまのご参加をお待ちしております。

7 ページ下段

はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター長 池山 晴人

File16。仕事を休んだときの「傷病手当金」について

傷病手当金は、病気やケガの治療により働けず給与が支給されないとき、収入を補うための重要な制度です。この手当金は、協会けんぽや組合保険に加入している会社員や公務員が対象で（一部の国民健康保険組合保険にも制度があります）、連続して 3 日以上仕事を休んだ場合に、4 日目を降の休業に対して支給されます。支給額は標準報酬日額の約 3 分の 2 が目安で、通算して最長 1 年 6 カ月（分）受け取ることができます。

申請には、医師や会社の証明が必要です。がん治療は長期にわたることがあり、経済的負担を軽減するためにも、早めに手続きを行いましょ。また、他の社会保障制度と併用できる場合もあるため、総合的な支援策を活用することが大切です。

また、退職後も条件を満たせば傷病手当金を受け取ることができます。退職前に 1 年以上継続して健康保険に加入しており、退職日において傷病手当金を受給しているか、または受給できる状態にあることが条件です。この場合、退職後も最長 1 年 6 カ月間支給が続きます。退職後に国民健康保険に加入した場合でも、退職前の健康保険の資格で傷病手当金を受け取ることが可能です。

加入している保険によって制度の違いがあるため、ご自身の場合についてご確認ください。

8 ページ上段

ご寄付について

寄付者ごほうめい 2024年6月1日～9月30日

米田 尚弘様、吉村 秀二様、福田 雄一様、吉村 裕士様、増田 修治様、奥出 徹様、室田 利加様、室田 希莉華様、平野 善久様、松田 信介様、西山 通様、西山 恵文様、上野 惇様、智多 昌志様、株式会社ザナックス様、大野 真弘様、鈴木 尚子様、柴谷 大樹様、谷口 建様、井之上 義己様、岩淵 東海男様、降井 繁蔵様、高橋 道夫様、加藤 順子様、磯田 美智江様、高山 富士夫様、楠 多聞様、織田 恭雄様、前久保 邦昭様、那須 幸嗣様、株式会社サトウ 代表取締役 佐藤 徹様、吉川 優子様、船木 幹雄様、田中 省三様、圖子 仁美様、一般社団法人日本栄養治療学会様、宮田 昭二様、藪内 茂様、田中 新一様、竹中 藤治様、奥嶋 一雄様、新井海運有限公司 代表取締役 新井 三喜男様、金谷 香夏様、松元 博樹様、徳永 弘通様、西田 良和様、乾 友哉様、堂園 浩平様、竹藤 晃介様、医療法人こじまクリニック 理事長 小島 隆司様、清水 美治様、岡本 守男様、大谷 祐子様、井上 善雄様、上田 りえ様、田口 正義様、富田 泰史様、永野 一智様、植田 進様、吉村 健一様、ラモト株式会社 代表取締役 寺本 伸行様、金村 幸一様、小林 裕弘様、浅野 尚未様、楠本 恵一様、吉水 玲子様、北中 晴彦様
他 匿名者 36 名

このたびもさまざまな個人や法人のかたがたから、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。温かいお心遣いに感謝するとともに、ご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い医療とサービスを提供してまいります。

8 ページ下段

ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たるセンターでありたいと考えています。患者さんの治療環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆様からのご支援をお願いしています。

奥付

オーアイシーアイだより 2024年秋号〈季刊〉

特定機能病院／地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局 総務・広報グループ

〒541-8567 大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL 06-6945-1181 (代表)

2024年10月発行

◆電車でご来院の場合

大阪メトロ「たにまち四丁目駅」北改札口から徒歩約5分／京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分

◆バスでご来院の場合

大阪シティバス「大阪城大手前駅」より徒歩4分

◆お車でご来院の場合

東大阪線「ほうえんざか出口」より約5分／東大阪線「森のみや出口」より約8分

【提携駐車場】

- ① エコロパーク大阪府庁駐車場
- ② 谷町筋地下駐車場（入り口は北向き1カ所のみ）

ほじょけんも同伴いただけます

ホームページ <https://oici.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/OICI.jp>

ライン <https://lin.ee/ZOcDHhU>